

# Asia Indicators

発表日: 2023年11月10日(金)

## 底入れした台湾の輸出に早くも一服感(Asia Weekly(11/3~11/10))

～半導体など電子部品に底堅さも、世界経済の減速懸念の高まりが輸出の足かせに～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522/050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
11/3(金)	(シンガポール)9月小売売上高(前年比)	+0.6%	--	+4.2%
11/6(月)	(タイ)10月消費者物価(前年比)	▲0.31%	+0.00%	+0.30%
	(インドネシア)7-9月実質GDP(前年比)	+4.94%	+5.05%	+5.17%
11/7(火)	(フィリピン)10月消費者物価(前年比)	+4.9%	+5.6%	+6.1%
	9月輸出(前年比)	▲6.3%	--	+4.2%
	9月輸入(前年比)	▲14.7%	--	▲13.0%
	(オーストラリア)金融政策委員会(政策金利)	4.35%	4.10%	4.10%
	(台湾)10月消費者物価(前年比)	+3.05%	+2.75%	+2.93%
	10月輸出(前年比)	▲4.5%	▲1.1%	+3.4%
	10月輸入(前年比)	▲12.3%	▲14.6%	▲12.2%
	(中国)10月輸出(前年比)	▲6.4%	▲3.3%	▲6.2%
	10月輸入(前年比)	+3.0%	▲4.8%	▲6.2%
11/9(木)	(中国)10月消費者物価(前年比)	▲0.2%	▲0.1%	+0.0%
	10月生産者物価(前年比)	▲2.6%	▲2.7%	▲2.6%
	(フィリピン)7-9月実質GDP(前年比)	+5.9%	+4.7%	+4.3%

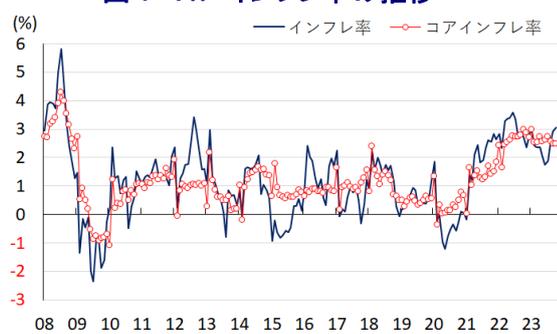
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [台湾]～幅広くインフレ圧力が再燃する動きがみられる一方、底入れした輸出の動きに一服感が出る兆候も～

7日に発表された10月の消費者物価は前年同月比+3.05%となり、前月(同+2.93%)から加速して9ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比は+0.38%と前月(同+0.62%)からペースこそ鈍化するも5ヶ月連続で上昇しており、エネルギー価格の上昇の動きに一服感が出る動きがみられる一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇が続くなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.49%と前月(同+2.48%)からわずかに伸びが加速している。前月比は+0.62%と2ヶ月連続で上昇している上、前月(同+0.15%)から上昇ペースが加速するなどインフレ圧力が強まっている。エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、台湾ドル安に伴う輸入インフレの押し上げも影響して幅広く財価格に上昇圧力が掛かる動きがみられるほか、経済活動の正常化の進展を反映してサービス物価も上昇が続くなど、全般的にインフレ圧力が強まっている様子が見えてくる。

また、同日に発表された10月の輸出額は前年同月比▲4.5%となり、前月（同+3.4%）から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲5.3%と前月（同+7.0%）から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、底入れの動きが続くも一転して頭打ちの様相を強めている。財別では、主力の輸出財である電子部品関連に底堅い動きがみられるものの、電気機械関連の輸出に下押し圧力が掛かっているほか、化学製品関連や鉱物資源関連の輸出が大きく下振れしていることが輸出全体の重石となっている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国本土向けのほか、日本や米国向けに底堅い動きがみられるものの、欧州向けやASEANなどアジア新興国向けが弱含んでいることが足かせとなっている。一方の輸入額は前年同月比▲12.3%と12ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲12.2%）からわずかにマイナス幅が拡大している。ただし、前月比は+6.1%と前月（同+2.7%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出と対照的に底入れの動きを強めている。中国本土や日本などからの輸入は堅調に推移するなど素材や部材関連の輸入は引き続き旺盛な推移をみせているほか、商品市況の底入れの動きも輸入額を押し上げている。結果、貿易収支は+57.72億ドルと前月（+103.24億ドル）から黒字幅が縮小している。

図1 TW インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 TW 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [タイ]～エネルギー価格の下落を受けインフレ率は2年2ヶ月ぶりのマイナスも、コアインフレ率はわずかに加速～

6日に発表された10月の消費者物価は前年同月比▲0.31%となり、前月（同+0.30%）から鈍化して2年2ヶ月ぶりのマイナスに転じている。前月比も▲0.28%と前月（同▲0.36%）から2ヶ月連続で下落しており、生鮮品を中心とする食料品価格は上昇している一方、原油価格は底入れの動きを強めてきたにも拘らずエネルギー価格は2ヶ月連続で下落しており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.66%と前月（同+0.63%）からわずかに伸びが加速している。前月比も+0.08%と前月（同▲0.03%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、わずかにインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。エネルギー価格の下落に伴い輸送コストに下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、先月からの通貨バツ安の進展による輸入インフレ圧力が強まっていることを受けて財価格が押し上げられているほか、経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価も押し上げられていることが影響している。

図3 TH インフレ率の推移



### [シンガポール]～ペントアップ・ディマンドは一巡も、必需品や日用品関連を中心に家計消費に底堅い動き～

3日に発表された9月の小売売上高は前年同月比+0.6%となり、前月（同+4.2%）から伸びが鈍化している。前月比も▲1.57%と前月（同+1.88%）から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一般感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど大きく流れを損なう状況にはないと判断出来る。なお、同国においては月ごとに自動車販売が上下に大きく振れるとともに、小売売上高全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲7.75%と前月（同+0.33%）から3ヶ月ぶりの減少に転じたことが小売売上高全体の重石になっている。ただし、自動車販売を除いたベースでも当月は前月比▲0.83%と前月（同+2.07%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅さが続いていると捉えられる。宝飾品などの高額品のほか、家具をはじめとする耐久消費財に対する需要は弱含む動きがみられる一方、食料品やエネルギーなど生活必需品のほか、日用品に対する需要は堅調な推移をみせており、経済活動の正常化に伴うペントアップ・ディマンド（繰り越し需要）の動きが一巡するなかで選別の動きが鮮明になっている様子がうかがえる。

図4 SG 小売売上高の推移



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。